

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 藤田優也
所属 (School) 生命環境科学域自然科学類
学年 (Grade) 1

留学先 (Name of overseas institution)
イギリス カンタベリー
コンコルドインターナショナル
留学期間 (study abroad period)
2018年2月10日~3月5日
記入日 (Date) 2018年3月20日

留学レポート Study Abroad Report

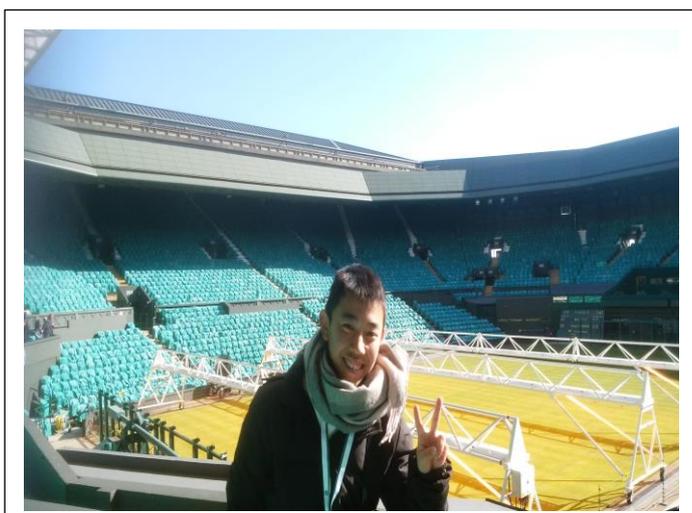
今回、大阪府立大学の海外留学プログラムでイギリスへ3週間行きました。私は海外へ行くのは今回が初めてでイギリスへ行くまでの飛行機の中では不安感でいっぱいでした。言葉の通じない国で生活できるのか町を歩いているだけで危険なのではないかなど色々なことを考えました。しかし、留学プログラム終了後にはこのような不安は一切なくなっていました。ホームステイ先での生活や学校の授業を通して、言葉の通じない人々とのコミュニケーションにおいては必ずしもその言語の文法や単語力がすべてではないということを学びました。私は英語のスピーキングやヒアリングは苦手でしたが、イギリス人と話すときには日本語を使うことができないため下手くそでも英語を使わざるをえない状況でした。そんな中でコミュニケーションをとるためにはジェスチャーを使ってみたり絵を書いてみたり色々な方法でなんとかして自分の考えを伝えようと思いました。このようにしてなんとか苦労して伝えようとした経験から言葉だけが伝達の手段ではないと学びました。なので、英語が苦手な話することができるか不安だという人でもこういったプログラムに参加することで他国の人と話すことに対する自信を持てるようになると思います。また、自分の意見を積極的に発言していく姿勢も学びました。現地の学校での英語の授業では日本の高校の授業などとは違い先生がそれぞれの意見を発表することを多く求めてきます。初めのほうは、私も恥ずかしさの感情からあまり意見を言わなかったのですが、意見を出していかないと授業が進まないうえにクラスメイトが積極的に意見を出していくので最後のほうには私も積極的に意見を出せるようになっていました。留学する前は間違えたくないからとか恥ずかしいなどの感情から発表することにあまり意欲的ではありませんでしたが、イギリスでの授業を受けたことでそういった感情はなくなり自分の意見を伝えることが一番重要であるということを知りました。これは、留学先だけでなく日本での授業や将来の職場などでも必要とされるものであると思うので今回とても良い経験であったと思います。ファミリーには食事や生活におけるマナーについても教えてもらうことができました。留学後にやっておけばよかったなと思うことはまず英語の学習についてです。言葉以外の方法での伝達についても学ぶことができたと言いましたが、やはり留学前にできるだけ英語を勉強しておけばもっと自分のことを伝えることができ、同時に相手のことを知ることができたのではないかと思います。そうすることで交友関係も多くなることができより充実した研修になったのではないかと思います。また、ホストファミリーともっと会話する機会を作ればよかったなと思いました。イギリスのファミリーは思っていたより放任主義なので自分から話しいかないと相手にもされません。私の生活していた家のファミリーはよく子供とテレビ電話をしていたので邪魔をしないようにと自分の部屋にいる時間がどうしても多くなってしまいました。あの時、テレビ電話の邪魔をするのはよくないですがすぐに部屋に行ってしまうので、もっとファミリーと会話できていたらより自分のことを知ってもらえ仲良くなったのではないかと後悔しています。ファミリーと話すと時間が長いほど英語能力の向上にもつながると思うので話せるときはどんどん積極的にファミリーと話すと重要だと思いました。このように今回の語学研修は私にとってとても重要な経験となるものであり、またとても楽しいものでありました。今回の経験をいかしてこれからの大学生活をがんばっていけたらなと思います。



イギリス大英博物館

イングランドプレミアリーグ所属

チェルシーの本拠地



ウィンブルドンセンターコート